

2020年3月期第3四半期決算電話会議 主なQ&A

Q 山陽新幹線・北陸新幹線の運輸収入の実績は。

A 第3四半期累計では、山陽新幹線が対前年+86億円の増の3,238億円、北陸新幹線が対前年▲12億円の減の317億円。山陽新幹線の対前年+86億円の増の内訳は、基礎が対前年100.6%で+18億円の増、特殊要因が+67億円の増。第3四半期のみで平休別では多客期を除いて平日が対前年101%、休日が対前年98%で、ビジネス需要は堅調に推移したと認識。北陸新幹線の対前年▲12億円の減の内訳は、基礎が対前年98.5%で▲4億円の減、特殊要因が▲7億円の減。

Q 新型コロナウイルスについて、足元での影響は。

A 鉄道事業においては、出張の抑制や出控え等によるご利用の減は現状見られない。一方、非鉄道事業では、ホテル業・旅行業において一部キャンセルが発生している。今後の新型コロナウイルスの感染拡大については状況を注視し、業績への影響を見極めてまいりたい。

Q ホテル業の市況についてはどう考えているか。

A 大阪・京都ではビジネスホテルを中心に供給が増加し、当社グループのホテルに若干のマイナス影響があった。引き続き、立地への徹底的なこだわりに加え、広範なエリア展開による会員の囲い込みを強化し、収益確保を図る。

Q 来期の見通しは。

A 来年度計画は、今後作成していくため、数字については期末決算までお待ちいただきたい。運輸収入については、新型コロナウイルスによる影響なども踏まえ、引き続き動向を注視する必要がある。来期は、特殊要因としての増要素および反動減要素も複数あると認識している。単体営業費用もトータルとして引き続き高水準となる見込み。修繕費が高水準となると見込むほか、高水準の設備投資に伴い減価償却費も引き続き増。警備費・システム関連経費も増える見通し。非鉄道事業については、今期開業した案件の平年度化による増等がある一方、三大プロジェクトの工事が本格的に始まることに伴い、広島駅ビルASSEの閉館等による減も発生する見込み。

以上